



平成30年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年8月14日

上場会社名 ワイエスフード株式会社
 コード番号 3358 URL <http://www.ys-food.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 緒方 正憲

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 岩下 征吾

TEL 0947-32-7382

四半期報告書提出予定日 平成29年8月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	424		23		26		27	
29年3月期第1四半期								

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 18百万円 (%) 29年3月期第1四半期 百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	7.17	
29年3月期第1四半期		

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	4,045		1,811		44.8	
29年3月期	4,027		1,848		45.9	

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 1,811百万円 29年3月期 1,848百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		5.00	5.00
30年3月期					
30年3月期(予想)		0.00		5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,861	3.8	56		46		32		8.42

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期1Q	3,873,000 株	29年3月期	3,873,000 株
期末自己株式数	30年3月期1Q	株	29年3月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期1Q	3,873,000 株	29年3月期1Q	3,873,000 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が続いたものの、個人消費の伸び悩みや国外における政治・経済の不透明感の増大などにより、依然として先行き不透明な状況が続いております。

外食産業におきましても、消費者の節約志向は依然として強く、食の安心・安全だけでなく、同業種はもとより他業種との店舗間競争が一層激しくなるとともに、原材料価格の高騰や人財コストの上昇が続くなど、引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社及び当社グループにおきましては、「一杯のラーメンをお客様に満足していただく」という創業当時の理念にのっとり、「美味しさと快適な食の空間」の追求、「食の安心・安全」の維持向上に取り組む、お客様一人一人に誠実であり続けることに、より一層邁進してまいるとともに、過去の成功体験に依存することなく、市場動向に合わせ、既存事業の運営体制の見直しによる収益構造の改善及び新規事業の創出、新規市場への進出を進めると同時に、外食事業におきましては、従来の枠にとらわれない事業領域の再構築を進めてまいりました。

当第1四半期連結累計期間の売上高は424百万円となり、営業利益におきましては、新基幹システム導入費用等の影響もあり営業損失23百万円、経常利益におきましても、持分法による投資損失等の影響もあり経常損失26百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失は27百万円となりました。

なお、当社は、平成29年3月期第1四半期は非連結での業績を開示しております。そのため、平成29年3月期第1四半期の経営成績（累計）及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

報告セグメントの業績は次のとおりであります。

(外食事業)

当第1四半期連結累計期間におきましては、新規顧客獲得と既存顧客のリピー率向上を図るため、「餃子190円」、「餃子半額」といった餃子をメインとした販促セールを実施したことに加え、当社の食材を活用した「定食メニュー」に加え夏季限定メニューとして「香味醤油 汁なしラーメン」及び「冷やし中華」を導入する等、店舗売上高及び食材出荷の増加に努めてまいりました。

また、平成30年3月期の経営戦略であります「国内店舗の純増」への取り組みとして、加盟希望者が低資本・低リスクでの出店を可能とすべく、居抜き店舗を活用した、既存の「山小屋」、「ばさらか」ブランドとは異なった低予算型のオリジナルブランドの確立へ取組んだ結果、平成29年6月28日に北九州市小倉北区へ「みちくさらめんKentaro」をオープンし、新たな収益源の基盤を構築してまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は377百万円となり、営業利益11百万円となりました。

オリジナルブランドの展開につきましては、7月に「らーめん一陽」、8月に「麵匠 いち武」とオープンを行っておりますので、第2四半期連結累計期間におきましては、さらなる収益源の獲得に繋がるものと判断しております。

なお、当第1四半期連結会計期間末の店舗状況は、前連結会計年度末に比べ3店舗減少し160店舗（直営店4店舗、FC店112店舗、海外44店舗）となりました。店舗数の増減については、「みちくさらめんKentaro」の新規出店及び、中途解約による店舗の閉店4店舗（FC店1店舗、海外3店舗）であります。

(不動産賃貸事業)

当社が所有する店舗用地等の有効活用を目的とした賃貸事業を行っており、当第1四半期連結累計期間の売上高は16百万円、営業利益8百万円となりました。

(外販事業)

ラーメン等の製品を主要販売品目とする外販に加え、インターネット通販サイトにおける通信販売及び一般小売先向け卸し、委託販売による小売りを行っております。当第1四半期連結累計期間における外販事業の売上高は12百万円となり、営業損失12百万円となりました。

（美容・健康事業）

連結子会社株式会社日本美容研究所が取り扱うプライベートブランドを用いて、国内外におけるファスティングスタジオの事業展開を進めております。また、同社の美容関連・健康食品両分野において、コールセンターを用いての販売促進を行うと同時に、インターネット通販サイトにおける通信販売およびドラッグストア・免税店等の一般小売先向け卸し、委託販売による小売りを行っております。

なお、当第1四半期連結累計期間における美容・健康事業の売上高は4百万円となり、営業損失10百万円となりました。

（その他）

当社は、飲食店用の厨房設備の販売を、FC加盟店などに行っております。連結子会社株式会社Zing'sは、デザイン事業を行っております。

当第1四半期連結累計期間におけるその他事業の売上高は13百万円となり、営業損失2百万円となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ4百万円減少し984百万円となりました。これは主に、夏季の繁忙期を見据えた生産量を増やしたことから、商品及び製品が19百万円増加していることに加え、当社所有資産に係る固定資産税の支払い等の関係により、その他が44百万円増加したものの、現金及び預金が52百万円、売掛金が15百万円減少したこと等によるものであります。一方、固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ22百万円増加し3,061百万円となり、これは主に、投資有価証券が18百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、総資産は4,045百万円となり、前連結会計年度末に比べ17百万円の増加となりました。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ3百万円増加し、1,041百万円となりました。これは主に、未払法人税等が7百万円減少したものの、1年内返済予定の長期借入金が10百万円増加したこと等によるものであります。一方、固定負債につきましては、長期借入金の純増等の理由から、前連結会計年度末に比べ52百万円増加し、1,192百万円となりました。

この結果、負債合計は2,234百万円となり、前連結会計年度末に比べ55百万円の増加となりました。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は1,811百万円となり、前連結会計年度末に比べ37百万円減少いたしました。これは主に、配当金の支払が19百万円及び親会社株主に帰属する四半期純損失が27百万円があったものの、その他有価証券評価差額金8百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、自己資本比率は44.8%（前連結会計年度末は45.9%）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の連結業績予想につきましては、現時点において平成29年5月15日に公表致しました連結業績予想の変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	619,760	566,917
売掛金	185,472	169,793
商品及び製品	122,917	142,766
仕掛品	1,416	1,567
原材料及び貯蔵品	13,729	12,386
その他	49,909	94,099
貸倒引当金	△4,593	△3,270
流動資産合計	988,612	984,259
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	959,518	947,430
機械装置及び運搬具(純額)	35,121	32,762
土地	1,585,604	1,585,604
その他(純額)	10,703	11,213
有形固定資産合計	2,590,947	2,577,010
無形固定資産		
その他	81,673	81,924
無形固定資産合計	81,673	81,924
投資その他の資産		
投資有価証券	142,181	160,818
繰延税金資産	1,023	962
敷金及び保証金	107,439	108,289
その他	166,559	184,855
貸倒引当金	△50,720	△52,640
投資その他の資産合計	366,484	402,287
固定資産合計	3,039,105	3,061,222
資産合計	4,027,717	4,045,481

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	83,001	83,444
短期借入金	200,000	200,000
1年内返済予定の長期借入金	493,132	503,467
未払法人税等	10,481	3,374
賞与引当金	11,421	5,618
ポイント引当金	632	625
その他	239,433	245,009
流動負債合計	1,038,102	1,041,539
固定負債		
長期借入金	861,725	912,832
役員退職慰労引当金	50,586	51,502
退職給付に係る負債	65,182	63,932
資産除去債務	46,451	45,747
その他	116,816	118,917
固定負債合計	1,140,762	1,192,932
負債合計	2,178,865	2,234,471
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,002,050	1,002,050
資本剰余金	831,588	831,588
利益剰余金	2,747	△44,400
株主資本合計	1,836,386	1,789,238
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18,198	26,301
為替換算調整勘定	△978	△220
退職給付に係る調整累計額	△4,754	△4,308
その他の包括利益累計額合計	12,465	21,771
純資産合計	1,848,852	1,811,009
負債純資産合計	4,027,717	4,045,481

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	424,125
売上原価	222,111
売上総利益	202,013
販売費及び一般管理費	225,319
営業損失(△)	△23,305
営業外収益	
受取利息	1,439
受取配当金	160
違約金収入	824
その他	1,064
営業外収益合計	3,488
営業外費用	
支払利息	3,343
持分法による投資損失	2,120
その他	1,255
営業外費用合計	6,718
経常損失(△)	△26,535
特別利益	
固定資産売却益	24
特別利益合計	24
税金等調整前四半期純損失(△)	△26,510
法人税、住民税及び事業税	1,211
法人税等調整額	61
法人税等合計	1,272
四半期純損失(△)	△27,783
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△27,783

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純損失(△)	△27,783
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	8,102
退職給付に係る調整額	445
持分法適用会社に対する持分相当額	757
その他の包括利益合計	9,305
四半期包括利益	△18,477
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△18,477
非支配株主に係る四半期包括利益	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間（自平成29年4月1日 至平成29年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	外食事業	不動産 賃貸事業	外販事業	美容・ 健康事業	計				
売上高									
(1) 外部顧客に対する 売上高	377,211	16,751	12,158	4,507	410,628	13,496	424,125	—	424,125
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	17	83	—	—	100	590	691	△691	—
計	377,229	16,834	12,158	4,507	410,729	14,087	424,816	△691	424,125
セグメント利益 又は損失 (△)	11,177	8,792	△12,691	△10,727	△3,448	△2,964	△6,412	△16,893	△23,305

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲食店用の厨房設備の販売、デザイン事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△16,893千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△17,083千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。